

■誌上発表8

1 研究主題 お菓子箱のパッケージデザイン（新商品の開発）

2 提案者 葛飾区立葛美中学校 教諭 田中 幸司

3 テーマと題材の関わり（題材設定の理由）

テーマの「メッセージ～色彩・形・ことばからの発信～」を受けて、デザインの分野の中でも、色彩・形・文字情報をストレートに伝える作品制作として、視覚伝達デザインを選択した。箱形のお菓子のパッケージは、生徒が普段見慣れている、身近な視覚伝達デザインのひとつといえる。箱の形（大きさ・開け口など）・色彩（中身のイメージ・ターゲットとする年齢層など）・文字情報（必ず記載されている情報・そのお菓子特有の情報）・キャラクター・キャッチコピーなど、そこには多くのデザイン上の工夫を見つけることができる。また、日々多くの新商品が生み出され、リアルタイムで参考資料を手に入れることができる。まずはそれらをよく観察し、どのお菓子のパッケージにも共通しているデザイン上の特徴（商品名がどの面にも表示されている・中身の写真があるなど）や、デザイン上大切な事柄を見つけること、そしてそれを念頭にオリジナルのデザインを考え、形にしていくことで、学習指導要領＜2内容A表現（2）デザイン・工芸＞「ア、デザインの効果を考え、形や色彩、図柄、材料、光などの構成を簡潔にしたり総合化したり、取り合わせを工夫するなどして、美しく心豊かなデザインをすること」を達成することができると考える。また、中身のお菓子そのものの形・素材・特徴などを一から全て自分で考え出すことで、「イ、使用する者の気持ちや機能、夢や想像などから独創的に発想し、造形的な美しさ、材料や用具の生かし方などを総合的に考え、創意工夫してつくること」に繋がると考え、この主題に取り組んだ。

4 学習の目標

（1）デザインの理解と計画的な制作

- ① 身近にあるデザインの観察を通して、デザインの持つ特性（機能と美）を理解し、制作に生かす。
- ② パッケージデザインとして、どのような中身を、どのような人たちに向けて、どのように伝えるのか、ねらいをもって構成・色彩のデザイン計画をすることができる。
- ③ 観察→デザイン計画→下描き→色彩計画→転写→着彩→組み立ての手順を、計画的に進める。

（2）制作上の創意工夫と丁寧な制作

- ① 材料・画材の特性を生かし、効果的に着彩や配色を行う。
- ② 完成まで丁寧な作業を心がけ、着彩・組み立てを行う。

（3）相互鑑賞の充実

- ① 完成作品を相互鑑賞し、デザインとしての作品の良さに気付く。

5 評価の観点

（1）関心・意欲・態度

題材に関心を持ち、主体的に制作に取り組んでいるか。＜授業観察・パッケージ観察表＞

（2）発想や構想の能力

商品を一から考え出し、ねらいを持ってそのパッケージをデザインしているか。デザインの持つ特性を理解したうえで、内容を工夫しているか。＜デザイン計画・下描き・作品＞

（3）創造的な技能

最後まで丁寧に作品を完成させているか。材料・画材の特性を生かし、効果的に着彩・配色・組み立てを行っているか。＜下描き・作品＞

（4）鑑賞の能力

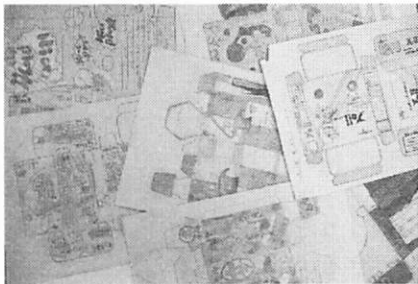
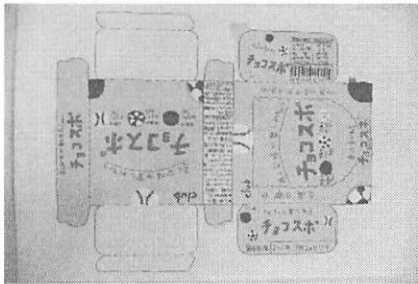
完成作品を相互鑑賞し、デザインとしての作品の良さに気付いたか。＜鑑賞シート＞

6 学習計画（全12時間）

（1）用具・準備

- ① 材料 ケント紙
- ② 道具 色鉛筆 セロハンテープ アクリル絵の具 グロスメディウム はさみ 両面テープ
- ③ その他 お菓子の箱（形が異なる4～5種類）を展開したサンプル ワークシート（2種類のサンプル・パッケージ観察表 デザイン計画 下書き用展開図4種類）

(2) 展開

次	時	学習活動	指導上の留意点
一	①	導入 主題に説明・デザインの観察(2種類のサンプルを比較し、観察表を記入する。)	<ul style="list-style-type: none"> ・デザインをするということを意識させる。 ・パッケージとして共通している要素と、その商品独自の要素を発見し、視覚伝達デザインとしてのパッケージに必要な要素を理解させる。 ・宿題 (さまざまなパッケージの観察)
二	②	デザイン計画 商品名・箱のタイプ・	<ul style="list-style-type: none"> ・中身を先に考えさせることで、取りかかりやすい。また中身のお菓子をPRするために、どのようなパッケージにすると良いか、また、ターゲットとする年齢層などを詳しく考えさせ、ねらいをはっきりさせる。
	③	中身の詳細・必ず記載する情報・その他キャラクターなどのデザインを計画する。	
三	④	下描き・色彩計画・転写	<ul style="list-style-type: none"> ・さまざまなサンプルを提示し、同じ箱の形でもデザインの向きや位置等に違いがあることを確認する。 ・オリジナリティーがありながら、デザインとして必要な条件を満たすというところに、良いデザインとしての価値を見いだせるよう支援する。 ・転写の時、鉛筆で裏を黒く塗りすぎないように指示する。(汚れ防止)
	⑦	4種類の展開図(コア型・コロ型・トッポ型・フラン型)を用意し、自分の選んだタイプの箱の下描き用紙に下描きを行い、色鉛筆で色彩計画を行う。→ケント紙に転写	
			
四	⑧	着彩 (⑧~⑩)	<ul style="list-style-type: none"> ・栄養成分表や原材料表など、細かい部分はペンなど画材を工夫して行うよう指示する。 ・アクリル絵の具の特性(発色性が良い・速乾性・耐水性など)を生かした表現の工夫を促す。
	⑩	アクリル絵の具で着彩。着彩終了後、グロスメディウムを表面に塗る。	
			
五	⑫	組み立て・鑑賞 展開図に沿ってはさみで切り取り、両面テープで組み立てる。→相互鑑賞	<ul style="list-style-type: none"> ・展開図が絵の具で隠れてしまった場合、サンプルをあてて、展開図を書き直させる。 ・相互鑑賞を通して、さまざまなデザイン上の工夫を見つけられるよう、ワークシートを工夫する。
		